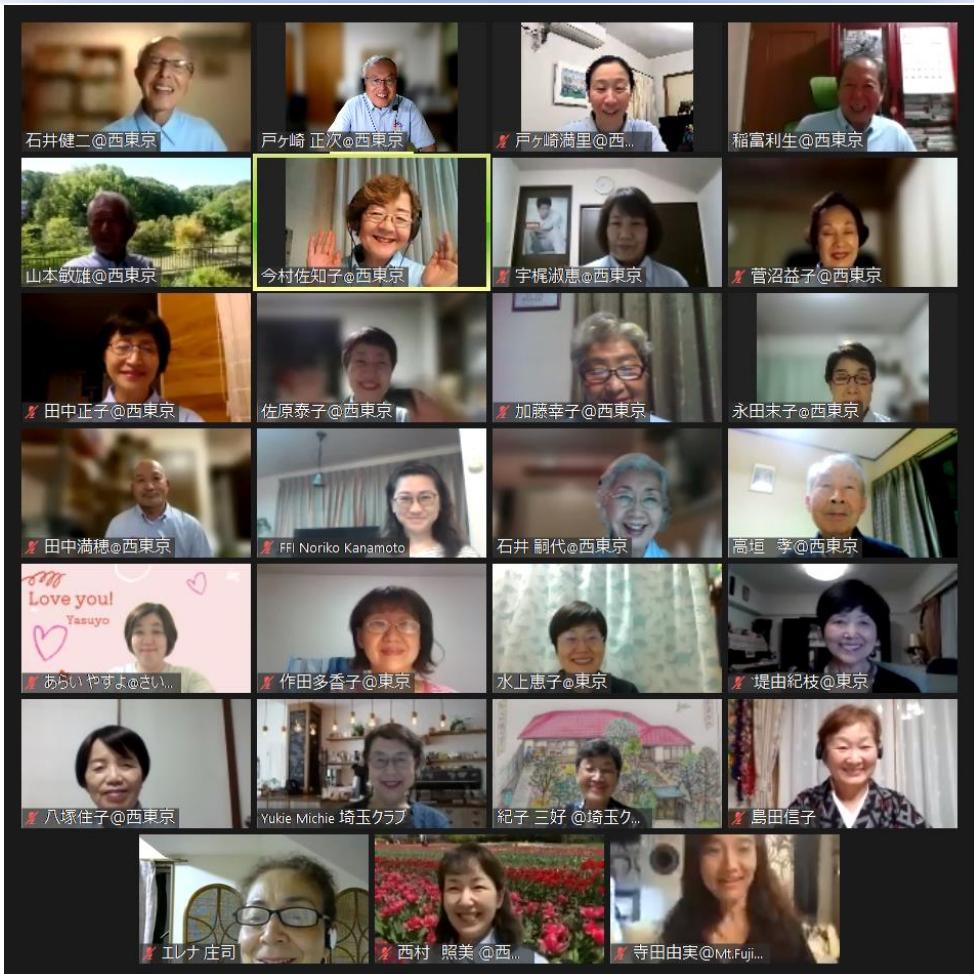




2021（令和3）年11月号 F F 西東京クラブ会報第34号

1

関東ブロック会議



オンラインで開催

田中 正子

7月11日（日）コロナ禍の為、昨年中止になった関東ブロック会議が、西東京主催でZoomで開催されました。

東京、埼玉、Mt.Fuji山梨、武藏野目黒、西東京の5クラブより合計28名の参加者が集まり、懐かしい方々との再会を喜び、大いに盛り上がるなか、それぞれのクラブの現状報告やFFの今後の活動について活発な意見交換をしました。

各クラブが会員の絆を強くするため、今できることを精一杯、知恵を絞って様々なイベントを開催していることを知り、とても参考になりました。西東京がご紹介したPC教室には他のクラブから大きな反響をいただきました。人々と交流して話をすることがいかに日々の活力を与えてくれるかを改めて感じた素晴らしい集いでした。

最後に海外との交流ができないこの機会を前向きにとらえ、「ITの新技術をマスターして新しい時代に対処していきましょう」と締めくくり、無事に閉会となりました。

秋のイベント・小野路里山ハイキング

松塚 邦子

10月27日（木）に2年ぶりに開催したイベントは11名が参加して、江戸時代に大山詣りの宿場として賑わった八王子と町田の境付近の小野路里山ハイキングです。「のどかな里山をのんびりと歩きましょう！」という企画でしたが、バスを降りた時から小雨が降り出し、傘を差しての里山歩きとなりました。ぬかるみに足元を気づかいながら、東京とは思えないどんぐりやみかんの木、大きな葉の里芋畠、そして六地蔵や牛舎などを見ながら歩きました。

ちょうど雨が止み、浅間神社で昼食。芝生にシートを広げていましたが、食べ終わった頃にまた降り出しました。

帰路は再び傘を差して里山、昔ながらの建物が残る小野路宿通りを歩き、交流館へと戻りました。ここでは小野路産の野菜や果物を買ったり、コーヒーやジュース、ビールを飲みながら交換の思い出話をしたり、一息ついて、昼過ぎには鶴川行のバスで家路へと着きました。

このような雨降る中でも、明るく・楽しく・逞しい仲間でした。有難う御座いました。

パソコン教室

戸ヶ崎 正次

過去の経験からパソコンの先生は絶対にやらないと誓っていたのですが、「準備はほどどしない」「その時の流れでパソコンとは関係ない話になってもOK」との条件のもと、田中満穂さん、富長健治さんと一緒に始めました。

これまでにショートカットキーの使い方、ファイル名の付け方、伝助の使い方、写真の管理の仕方などをやってきました。講師の私たちにとってちょっとしたことでも、伝授すると皆さんに驚いていただけるのでマジシャンになった気分でこちらも楽しくやっています。ビックリするほど簡単だった動画編集の話も、皆さんに聴いていただき好評でした。

今後はZoomの機能をもっといろいろ使ったり、個人情報の扱い方について議論したりなどを考えています。

クラブミーティングは月1回しかないので、このパソコン教室がメンバーと仲良くなる良い機会になっています。10月からは国内の他のクラブからの参加も始まりました。お時間のある時だけでも、前回の復習や質問もOKですので、たくさんの方のご参加お待ちしています。



途中の見晴らし広場で休憩

Ciao! トガちゃんのパソコン教室

Tech Advisor Role



◆西東京クラブ・パソコン教室◆

日時：毎週月曜日（第3除く）

20:00～21:00

会場：Zoomにて

クラブホームページの
会員のページから入れます

8月30日（月）日本時間20時から、FFJ主催の「音楽フェスティバル/Music Festival from Japan to the World」がZoomで開催されました。世界各国から80名近くの参加がありました。日本からは琴、ライア（ドイツの弦楽器）の演奏、米・ウェスタンミシガンクラブが歌いながら地元を紹介した他、藍染のプレゼンや英語で落語など音楽以外のパフォーマンスなど多彩で、約1時間楽しみました。オーランドクラブのカースやリン、スーなど懐かしい顔ぶれを見掛けたり、ブレークタイムでは再会の挨拶を交わしたりもしました。

私は主人のウクレレとピアノと一緒にクラリネットで出演。多言語でのあいさつも交え、インドネシアの民謡“Soleram”や中南米のスペイン語圏で誕生日に歌われている“Las Mañanitas”、ジャズのスタンダードナンバー“Cool Struttin”の3曲を演奏しました。画面越しでも緊張するものでミスもしましたが、なかなか楽しかったです。

リアルで交換が始まつたらぜひ世界中から集まって、フェスティバルを開催できればと想像しています。



ピアノとクラリネットで

新会員紹介 & FFI・ブッククラブ

高垣 祐子

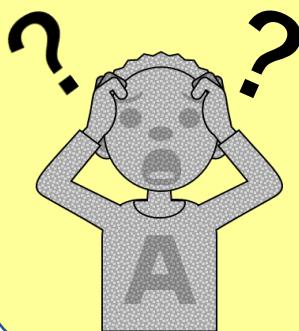
高垣祐子です。30年ほど前より両親がこちらのクラブでお世話になっていたものの、私は会員ではありませんでした。

洋書好きなのですが、それを分かち合う相手と言えばAmazonの書評欄ばかり。そんな折、こちらのブッククラブを伺い、入会させて頂きました。ブッククラブでは、全国のFFの方々とオンライン画面を通してお目にかかりましたが、初対面でもお話が尽きることありませんでした。本の途中まで読んで挫折した人（=私）を励まし、読む気にさせて下さる心優しい先輩読者たちばかり。楽しいひと時はあっという間で、本の持つマジックが存分に発揮された初回でした。

クラブでの選定本は、現時点では英語圏での超ベストセラー児童小説（小中向け）、日本語はじめ他言語にも翻訳されているもの。渡航・受入、どちらにしても、場合によっては役立つ場面があるかもしれません…本のさらなるマジックに期待しています。



★語学コラム★



例に挙げた
訳語と英語を
つなげて
みましょう！
答えは
6ページ

【間違いやすいカタカナ語】

パンク・	· security guard
バックミラー・	· heater
シャープペンシル・	· rearview mirror
バイキング・	· stove
トランプ・	· mechanical pencil
ポテトチップス・	· flat tire
ガスレンジ・	· buffet
ガスストーブ・	· cards
ガードマン・	· French fries

西東京クラブ、最初の渡航と初期の受入

柳川 由紀子

コロナ禍中の5月、駒沢公園に向う道路脇で真っ赤なボトルフラッシュの花を見つけた私は、一瞬にして2002年10月の南半球の春に連れ戻されました。マレーブリッジのホスト・ジューンとリチャードの庭で眺めた、不思議な形の花が鮮やかに赤く燃える大きな木を思い出したのです。



ウェルカムパーティで

NEWS

Japan group welcomed to 'Bridge

Friendship Force is a great concept, according to Murray Bridge's deputy mayor, Milton Weinert.

Welcoming a group of 17 Friendship Force ambassadors from Japan at the Murray Bridge local government centre on Sunday, Mr Weinert said the concept enabled visitors to meet local people, stay in their homes, and really get to know the people and a feel for the country.

He hoped they would have an enjoyable and educational tour to the district and that they would come back again.

The group, from the Sandakan Force of West

Murray Bridge Friendship Force exchange director June Bowyer, Richard Bowyer, Friendship Force of West Tokyo exchange director Tenichi Nagakawa and Yukiko Nagakawa with deputy mayor Milton Weinert, who welcomed the visiting group to Murray Bridge on Sunday.

現地の新聞に載りました

リアの干ばつや山火事のニュースを見ると、彼の地の人々を思い、大切な水資源を守るために環境を守らなくては！と独り言が出ててしまいます。

また当時の受入は、ホストファミリーが単独でお互いの理解を深める為に過ごすのが普通でしたので、ホステスは確かに大変でした。クラブの行事がない日は近所を散歩してスーパーで買い物したり、喫茶店のケーキがあまりに美し過ぎて食べられない！と騒ぐアンバサダーとお茶したり。男性は経済や世界情勢の話、女性は万国共通の夫婦の問題などを身振りも交えて話し合うと、人種や習慣が違っても人間の本質は皆同じと共感が芽生える感覚が持てたものです。

幸運にもリターン訪問が出来た方々とは20年余りも交流が続きましたが、私もジューンもジャンも未亡人になってしまいました。FFの活動も一つの時代が終わったのかもしれません。若き日の憧れの地をともに巡った英國のフレッチャー夫妻、ニュージーランドのローリー夫妻、アトランタのポール。私は人々との交流が必ず平和につながると孫たちにも伝えます。そして無理矢理、私をこの活動に引き込んだ夫に遅ればせながら、感謝！

西東京クラブ発足後10年間は、会員が働き盛りで受入ばかりを続け、時間が渡航を許してくれない状況でした。しかし2002年にやっと第1回のアンバサダーの旅が実現の運びとなりました。

当時は受入側への配慮として、一斉購入したチケットで集団行動するのが当然でしたので、旅行代理店の手続きや渡航の目的や日本人代表としてのアンバサダーの自覚の確認、余興の盆踊りを練習する会が3回も開かれました。

参加者には東京クラブの初代会長・中野道子さん、最高齢76歳の佐原さんのご母堂を初めとして、渡航の為の臨時会員もいて多様でした。中野さんが貫かれた「渡航交流は物見遊山の旅ではない」というポリシーは、沖縄でひめゆり部隊を経験された方の平和への強い思いを感じました。

オーストラリアは水の貴重なところ、食器洗いは洗剤に浸けて熱湯を掛けるだけ、屋根のタンクに貯めた雨水をシャワーに使う等の生活習慣は、安全と水は只だと思いがちな日本人には良い体験でした。それからはオーストラ

それは、2002年10月のオーストラリア・マレーブリッジクラブです。

ホストのコリン夫妻と私は、マレー河のボートハウスにステイ。それぞれ3畳の部屋、10畳のリビングダイニング、3畳の台所、半畳のシャワー室、外にトイレがありました。雄大な水の流れと小鳥の声、夜空を見ると南十字星が美しかったのを思い出します。川幅が大きく、私のこだまが対岸から聞こえるので、「ヤッホー」と毎朝大声を出して、トム・ソーサーになった気分でした。

マレー河を北へ向かった時です。鳥などの楽園を見ていたら、急降下してきたペリカンに私のランチをさらわれました。ハムや野菜いっぱいのフランスパンが…。悔しく、そして懐かしい思い出です。

途中で親戚宅を尋ねながら、アデレードの本宅にも1泊しましたが、そこにはほとんど住んでいないそうで、定年退職後はずっとボートハウス暮らし。「Miko、私たちの暮らし、気に入った?」と聞かれ、「もちろん」と答えました。お土産にもらったランチョンマットを見る度に、そのボートハウスを思い出します。

NEW!

こんなおみやげ、もういました!

►アンバサダーから頂いたプレゼントで一番思い出深いもの。ケベッククラブから、ポロシャツとフランス語の本です。この本でフランス語を教えてもらいました。とても楽しい思い出です。シャツは今でも愛用しています。

(稻富利生)



►FFのメンバーからのプレゼントはどれも嬉しいですが、特にこの写真のスカーフが忘れられません。2010年エストニアからElviとTiina親娘をアンバサダーとしてお迎えした時に頂いたものです。Tiinaが知人に依頼して花柄を手書きで描いて貰ったそうです。「2010」とTiina達が日本に来た年が隅に小さく金色で書かれています。その後2012年に、私達夫婦はアンバサダーとして、エストニアのタリンでElviとTiinaに心からの御もてなしを頂きました。このスカーフを見るたびに彼女たちとエストニアを思い出します。(竹田敏子)



マレー河のボートハウスが描かれたランチョンマット

会員の皆さんのお写真や趣味などを紹介します。
紹介したい写真も募集しています。会報担当までお寄せ下さい。



私の趣味はテニス、ハイキング、ヨガ、絵画、旅行などいろいろあります。

先日友人と安達太良山と栗駒山に行き、紅葉を堪能して来ました。

(北川賀子)

今、卓球練習に明け暮れています。
私の島村美恵先生は、
先日の全日本卓球選手権マスターズ
50代の部で優勝し、日本一になりました。
強い人が沢山習いに来ています。
私は一番下手な方ですが
一番教室に通い、頑張っています。

(菊池美天)



セキセイインコのピーちゃん。
10年前に我が家にきました。
「むかしむかしあるところに
おじいさんとおばあさんが住んでいました…」
「ピーちゃん可愛い、いい子だね」
「ピーちゃんキャベツ食べる？」
など話します。
いつまでも元気でいてね。

(高石美保子)

【3ページ・語学コラムの答え】

パンク -----	flat tire
バックミラー -----	rearview mirror
シャープペンシル -----	mechanical pencil
ハイキング -----	buffet

トランプ -----	cards
ポテトチップス -----	French fries
ガスレンジ -----	stove
ガスストーブ -----	heater
ガードマン -----	security guard

これからFF

石井 嗣代

長引くパンデミックで、FFの活動はほぼ2年にわたって休止状態となりましたが、私たちも皆で慣れぬズームなどを使いつつ、何とか今年も終わろうとしています。

先日、本部ジェレミ会長から、これからについてメッセージが届きました。40年余りに渡る運営の中で、会費や様々な費用や名目が複雑になってきていましたが、理事さん方と長く真剣な議論の末、すっきり分かりやすくしたようです。来年(2022年)の年会費はインフレ調整分として25ドルとなります。2023年は30ドルです。そして交流の際のプログラムフィーは1回1週間で150ドルでしたが、長短遠近に関わらず1泊25ドルとなります。2年に渡って交流のないFFはほとんど収入がなくなり、経費を絞りつつもなかなか運営は大変そうです。創立45年に掛けて会員さん方に45ドルの寄付をお願いできたらうれしいとありました。数か月しますとFF本部の新しいHPやマイFFなども登場するようです。

10月のクラブミーティングでお話ししました2022年の国内交流は、上記の枠に当てはまらないことをFF本部に確認しています。私たちが独自に行う行事であり、渡航参加者から寄付を集めますし、会員同士が交流を深めるのは今後の活動に大いにプラスとなるからでもあります。

かなり感染者が減少ってきて、しばらくしたらまた国際交流ができる希望が湧きつつありますが、来年はひとまず国内交流を楽しめたら！と思っています。

今後の予定

- 11/15、12/13（月）19:00～20:00
役員会（Zoom）
- 11/27、12/18（土）14:00～16:00
クラブミーティング（つくし野）
- 2/12（土）11:00～14:00
クラブ総会（町田ホテルヴィラ）
- 交換
2022年は渡航・受入とも中止。
2023年はニューカレドニア・ヌメアクラブ渡航、オーストラリア・ゴールドコーストクラブ受入の予定。

* コロナの感染状況次第で流動的です*

【会員状況】 2021年11月現在
会員数：46名（家族会員含む）
入会：高垣祐子
退会：稻垣朋子 市川良美
西村照美 西村直樹



編集後記

◆34号もたくさんの会員の方にご協力をいただき、順調に発行できました。なるべく多くの会員に、紙面登場していただこうと考えています。（八塚住子）

◆今号も交換の記事はないものの、全7ページと、意外と充実した紙面になったのではと自負しています。次号ではまだ無理かもしれませんが、また渡航・受入の記事が載せられるよう、祈っております。（戸ヶ崎満里）

発行日：2021年11月14日 第34号
発行者：ザ・フレンドシップフォース
西東京クラブ
綾瀬市上土棚北5-3-10
Tel/Fax 0467-77-6172
会報担当：八塚住子 戸ヶ崎満里
中川貴文
ホームページ：<http://ffw-tokyo.org/wp>
担当：戸ヶ崎正次